

醫者栗毛

X

i 112

醫學書之卷

490.4

Is-2

No. 2279

IR 112



富士川文庫

646





醫者栗毛序

讀よえ小毫釐の差千里也。諺よへいさうる  
心相すよも心すよめぢらうやすうのことをよ之  
うれハ馬体指あ鹿とテ例もりもよて猪  
体行や青月虎のよをもすふ里の葛眉者  
ます。手のよとよとよとよとよとよとよと  
都の一帰人金ももももももももも  
外もほりへりへりへりへりへりへりへ  
よのすう。山狐狸の丘蓋とひゆねとく柏子  
トトと人をばましたるたん。猪志狂つぐ

鼓に似る脇の脹ケテマツリから化ハシメルる皮スルが頭  
毛ヒゲを生スルす不丈夫アフタシいとすらとあ  
も、ハニカムは是アリの詰裏ツメヲに包ハシメルしと革カーフ者スルもとお  
諭アドバイスを仰アシテす革カーフ者スルをば成ハシメルかうとあ  
もし或カタせ法ハシメルやまと公ハシメルナハシメル諭アドバイスと相ハシメルと識アリれ  
又アリ肺アリとアリよも醫ハシメル事ハシメルとアリとあたアリ  
小アリ連アリしりの太アリ横アリ身アリ腰アリ一アリあ  
世アリ用アリ小敗アリ所アリ三アリねあ並アリにアリは醫ハシメル者スル  
毛アリもアリ天アリ下アリ鼓アリ脹アリ脣アリ摩アリ獨步アリ  
さアリうアリ、アリもアリ又アリ身アリ形アリ白アリ花王アリ

きよ体氣全一とすらも流石の川へも  
柏木をぬう／＼あくまわ毫釐の差す  
あくあふざる辯りもとも努力す矣あく  
タクシムヘヤシの事トをばほしもかじして  
ををひきあす事トを云事政との対月の事  
フリ馬鹿な経験トもん

新 談骨化醫產要道爲医者栗毛

安藝乃小江戸

和漢蘭倉懇九著

無にち無の少は戸主中棚茅板屋は某の娘更  
のさうへりとあ行き西の田舎里トお友  
人嫁入トあ夫婦比翼の娶トとある後も  
夫婦の弟トあめう去事の卯月トお  
も又ト娘をふきりんあめうゆめうりを處  
したるよ亭トしお家ト也房トおとね  
すれどもと義の年庚トおとみ

高齢者  
ものあいはあ 章のよすよの松の巻にあ  
通内之と栗毛り馬もととく  
「かくすよ事ひあて 少年の巻にる流を  
おねしとあくまきのよすよのくち  
公の事のゆりの中須毛と相傳の間  
「かくすよ丁去」をもひけ中須毛の「かくすよ  
の川人」をもひがれと「一月の河の若松庵方」  
「かくすよ子田金の持たるの記長がり病人  
をねむすすと「人あつともあら」  
名をようか「川めどれ」「木風」「人  
りを、先生の上床すの様の善松庵す「田舎の花」  
の如くうきよりか「あつて」の「四月半  
くつあゆむひ井戸等す「お」  
「生豆豆」の豆豆とひそらぬかとせ「人」  
「あくまきのよすよの松の巻に」  
「かくすよ」と「人」  
「かくすよ丁去」をもひけ中須毛の「かくすよの川人」  
「かくすよ子田金の持たるの記長がり病人」

四足那ノラヨリモ外ノノ一田金堂も療法良  
くシテノシノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノノ  
ノノノノノノノノ  
ノノノノノノノ  
ノノノノノノ  
ノノノノノ  
ノノノノ  
ノノノ  
ノノ  
ノ  
ノ



物モノ 一 備ビ さら水ミズ うつらうとおとすわがむ

と年とし さよが五ごとちあはるの牛氏ウシノミツ あら水樓ミズヤマ  
の私わたしのふよゆよめぬ

とあし業アシヤク せん種シソ とん業アシヤク ひら

とくもじ業アシヤク ひづの豆ハト あくじかく業アシヤク

あまやうれりアマヤウレリ 一 南庄ミナミヤシマ とねられみ南常居ミナミヨウジ

おとめ帰アタメカム 一 南庄ミナミヤシマ 松寿マツス うしろふ院總院マツスウシロフイニン

つまうるエイ でち業アシヤク 達タヂマツ 一 松寿マツス

うおの湯ウオノヨウ 一 水ミズ あそびの水ミズ とま

とまの後アフタ 一 痢マタタキ もの 一 食余シキヨ とあをタマコ とま

とまのつるハマツル 一 水ミズ とまの水ミズ とまの

とまの水ミズ とまの水ミズ とまの水ミズ とまの水ミズ とまの水ミズ

さうの後星皇が多きの會と仕人の人にも集  
たる席にあり不得て多く厚くも少くもあつた星皇  
の事なり。星皇はよしとす厚く、せうはうれしき事  
額もまたよしとす。け顎を以て構のまゝうなづかれてゐる  
トメヤ居そとす。星皇はうだりておもひてゐる  
おりから後詔もどりてうち厚く、ひどくもあつた  
令優等もよしとす。の新つてよしゆすの後原方海主  
もやさきとよしとす。あらゆる官外の姓姓よりぞれつまう  
うちの理とゆゆる向の醫師等、すこし星皇をも  
長くしておゆる所がうつてあるをもしととか

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
星皇、とも木焉へよしとす。文中  
水構り先ナイスのすもあせりやああふ水構  
の先ナイスのすくおほりの先ナイスハ庵御よみがれそめゆ  
自暴りんじきのとくおほりのあわぬうきあは  
あすくはる。星皇はてまうすけいへ入あは  
もんとおも半ぬキ復教は年うきくわくよむくいをみ  
よのせんのすく壁がもとつひものもりとせんくあら厚子  
たち。ゆつとおもとおも半ぬ復教は年うきくわくよむくいをみ  
うくとくふちりふちりふちりふちりふちりふ  
うくとくふちりふちりふちりふちりふちりふ

むすなが那のうはうがみもく  
 かふとやふとすはま、かすよるうが  
 す演さんうはうが。ふらうとうちの  
 吴郡のうはうが。おとすれいのち  
 うをうと、あくしははい。  
 改やふりへかのうせき  
 うへつた  
 おへむ、はるかに  
 お、あわとおもひる、てきく  
 うふ、ゆきりまし床うきり  
 まちぬとももつきと  
 おへきふ、席うきりめあさ  
 すま声事は  
 まくまくまくまくまくまくまく  
 まくまくまくまくまくまくまく  
 まくまくまくまくまくまくまく  
 まくまくまくまくまくまくまく  
 まくまくまくまくまくまくまく  
 のがほせきおもとやくあくよ、  
 の名体はむけく、「あく不」の場  
 まくまくまく  
 じの舞多の中はうとまく二人あくまく  
 えい「おへすもまくもくひらめの種子どやまく  
 馬鹿をぬりをふとねがうと那のうはうが。舞  
 るはうがのうかの  
 まくまくまくまくまくまくまく  
 まくまくまくまくまくまくまく



おまえもさすがにやうりとる  
おとだが「水揚のあぶ  
トモアハキの声」中湧みしおう」中領  
トモアハキの声」中湧みしおう」中領  
トモアハキの声」中湧みしおう」中領  
トモアハキの声」中湧みしおう」中領  
トモアハキの声」中湧みしおう」中領

トモアハキの声」中湧みしおう」中領  
トモアハキの声」中湧みしおう」中領  
トモアハキの声」中湧みしおう」中領  
トモアハキの声」中湧みしおう」中領  
トモアハキの声」中湧みしおう」中領

トモアハキの声」中湧みしおう」中領

あまじちづへるへまくら波ノ有木より  
「春かふる房袖内美ゆゑ」もふ正が鳴  
はさむ。れのあもしる立きうちの片那  
の鼻をつゝひて、鹿りゆうま月、か月  
の月よ、「えちどき一春すけぐりよ鼻  
をそらあそぶ片那も妙勝だやせよ  
あうしにぞしめ、とくいふ、  
いねばくぢやが、とくいふ、  
すしらふ鴻の春歌多用のとくいふ聲  
ほくうの歌ひりすむまといとくいふ  
所

あまじづ川、か月、「春かふる房袖内  
のきじごんゑ、そうちの月をくはまく、  
うすい、けの夕へもととーあみ那、の月をくはまく、  
「え、かよゆ、うこゑもとくすくうの月をくはまく  
「まきづりあかるや、そりの月をくはまく、  
うの月をくはまく、まよ入大をくはり水橋をそ  
はまく、ゆゆ橋をまづね、殊殊ふらはまく、  
ゆまく、ゆゆ橋をまづね、殊殊ふらはまく、  
あまじづ川、か月、

星星先生重くおもひ「のうもう」が口をあけ  
身をあらはるしよ代ゆはるゝ善きとく  
かくのゆのうるゝ空ぢや海ぢや山ぢ  
るをむほし浦へ立たしのあ口へ流のうに  
味味をうねるす。うゆがやア尾下キラニシ  
シテモアシル高原の「馬鹿や」ふ「ハチキテ馬鹿  
ヒイキテ馬鹿」。

ハチキテ馬鹿」。  
「夫婦ちよまふとまつて夫婦  
也。」  
夫夫のまづかとそひりまつて夫婦  
夫夫のまづかとそひりまつて夫婦  
夫夫のまづかとそひりまつて夫婦  
夫夫のまづかとそひりまつて夫婦

八十八年夏、鳥害をあらしよしのうの空氣

三十九年六月、新まふことせんふせん  
相模へづるの空氣が、新まふことせんふせん  
「夫夫」連で夫夫あつたうつ生まやせ、夫夫あつた  
夫夫のまづかとそひりまつて夫婦

夫夫のまづかとそひりまつて夫婦

夫夫のまづかとそひりまつて夫婦

夫夫のまづかとそひりまつて夫婦

夫夫のまづかとそひりまつて夫婦

夫夫のまづかとそひりまつて夫婦

夫夫のまづかとそひりまつて夫婦

今政宗に於て御内閣の事務を取扱ひます  
おれもその事をうながすと「ええまあ  
あらまことにあらうううううううううう  
の事務はよ八軒をまの洋へさもどる。お作の  
多事だ大事だ」「お部屋の聲者よ、まふほ  
の天狗さんいあめちそりびり、壁紙うがられ  
のぢやうふきしゆくら 沢ふ天狗まといひ、  
うふき あくまきうで、一へんづくまきまくら  
小のうわざぬかのきのきのきのきのきのきの  
たる 〔おと〕 まつりのまことじうじうじう

ゆの音くかのゆ金一あのうくらぶ「えきう  
じあふつたむをあたへすの着座のあふ  
佑佐郎の室にけうやまくのまくよてみ  
あちつけの正送がり おづる三毛大毛毛う焉  
せのうのが室外を奸姦するもむね井  
の歌うううううううううううううう  
あくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまく



